	<b>国</b>							
	ブルースター疫病に対する還元土壌消毒の効果	··· 1		日射比例かん水自動制御による促成パプリ カの土耕栽培	5			
	土着キイカブリダニのバンカー法を利用し たアザミウマの防除	2	<b>9</b>	'ほほえみいっぱい'ふわっとレタス購買 者評価は良好!	6			
\$47,000,000,0 \$41,000,000,000,000,000,000,000,000,000,0	ハナニラの農薬登録促進	3		種子冷蔵苗を用いたトルコギキョウの夜 間変温管理栽培	7			
<b>A</b>	優良系統イチゴ「久留米 60 号」の特性	4		苦土資材葉面散布による米ナスの収量・ 品質の向上	8			

## ブルースター疫病に対する還元土壌消毒の効果







エタノール



無処理

## 表 1 ブルースター疫病に対する各種還元土壌消毒の効果

資材	処理量	調査 株数	発病株率(%) (定植112日後)	薬害
フスマ <sup>a)</sup>	1t/10a 170L/m² 灌水	519	0	_
エタノール <sup>b)</sup>	2%希釈液を 180L/m² 灌水	524	0	
無処理	_	528	22.9	

- 注) 昨年度に疫病が中程度発生した圃場で実施した。
- a) フスマを土壌表面に散布してよく混和し、灌水チューブを設置してフィルムで被覆後十分灌水した。 処理は2009年9月24日、被覆期間は9月24日~10月15日。
- b) 土壌をよく混和して灌水チューブを設置し、フィルムで被覆した後に工業用エタノールを液肥混入器で2%に希釈しながら十分灌水した。処理日等はフスマと同じ。

本県特産花きのブルースターに発生している疫病は、土壌伝染性が強く、病原菌は発病ほ場の地下30cmの深い土壌中からも検出されます。そこで、本病に効果的で化学農薬を用いない環境保全型農業技術として、フスマまたは低濃度エタノールを利用した還元土壌消毒法を検討しました。その

結果、還元土壌消毒を行った処理区では、いずれも定植112日後の調査で全く発病が見られませんでした(写真、表 1)。今後は現地実証なども行いながら、普及性の高い防除体系を構築したいと考えています。

(病理担当 安達理恵 088-863-4915)